

## 色彩に対する評定の再現性の検討

○梅花短大 川端澄子 鳴門教育大 藤原康晴

目的：色彩は、そのイメージで評価されることが多い。このイメージは評定者の直感的、感覚的なもので形成されるため、繰り返し評定されるとき、同じ評定値が得られるとは限らない。本研究は同じ評定者に同じ色を1週の間隔をおいて繰り返し提示し、そのイメージをSD法を用いて測定し、評定者別、評価尺度別、提示色別に評定値の再現性を検討した。

方法：5種類の単独色、2種類の2色配色の計7種類の色紙（8×8cm）を灰色（N7）の台紙に貼ったものを提示試料として用い、12個のSD尺度（7段階）を用いて2回測定した。1回目の測定と1週間後の測定では提示する色紙の順序、評定尺度の順序を変えた評定用紙を用いて行った。この測定は平成10年6月に女子短大生107名を対象に実施した。

結果：2回の評定値に対して各評定者別に相関係数( $r$ )を求めたところ0.20～0.89の範囲にあり、その平均値は0.76であった。次に、各尺度別の $r$ を算出した結果、0.36（はっきりした／ぼんやりした）から0.70（好きな／嫌いな）の範囲となり、その平均値は0.46であった。評定者の評定平均値を代入して算出した色別の $r$ は0.89（青）から1.00（ピンク）であった。全評定者を再現性の良否（ $r$ の大小）によって3グループに分け、各色別、各評定尺度別に3グループの評定平均値を求め、グループ間の違いを分析した結果、84（7色×12尺度）の評定平均値のうちの43%に違いが認められた。